

令和7年度 2年生

普通科

進学コース

科・コースガイド

高崎商科大学附属高等学校

【国語科 シラバス】

| | | | | | | |
|-------|-------------|-----|---|------|----------------|--------------|
| 科目名 | 古典探究 | | | 使用教材 | 教科書 | 新編古典探究（東京書籍） |
| 学 年 | 2 | 単位数 | 2 | 副教材 | 新編古典探究 学習課題ノート | |
| 科・コース | 普通科 進学コース文系 | | | | | |

【授業の概要】

我が国の古典としての「古文」・「漢文」を読む能力を養うと共に、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典に親しむことによって、人生を豊かにする態度を育てようとする科目です。

【学習方法と授業の進め方】

- ・音読や朗読、暗誦などを行います。
- ・辞書を引き、古語や漢語の意味を調べ、覚えます。
- ・作品の時代背景や作者の経歴、有職故実について調べ、覚えます。
- ・重要語句や文法などの小テストを行います。
- ・教材を正確に深く読み込み、内容を的確に理解します。
- ・登場人物の心理や出来事などを正確に理解します。

【学習評価】

- (1) 定期考査…70パーセント（年5回）
 1学期 中間考査・期末考査 2学期 中間考査・期末考査 3学期 期末考査
- (2) その他…30パーセント
 ・小テスト ・提出物（ノート、プリント、感想文など） ・授業態度 ・出席率など

観点別評価

| 評価の観点 | 内容 | 評価方法 |
|----------------|---|--|
| ①知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・歴史的仮名遣いの読みに慣れ、現代仮名遣いに直して書くことができるか。 ・我が国の古典文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしているか。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読の決まり、古典特有の表現などについて理解しているか。 ・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めているか。 | 定期考査、授業中の小テスト等 |
| ②思考・判断・表現 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしているか。 ・自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫しているか。 ・作品や文章に表われているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈しているか。 ・文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価しているか。 ・作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めているか。 ・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっているか。 | 定期考査、論述、レポートの作成、発表、グループでの話し合い等 |
| ③主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> ・進んで本文の内容や構成、展開を的確に捉え、登場人物の心の動きを読み取ろうとしているか。 ・進んで筆者のものの見方や感じ方を捉えて作品を読み味わおうとしているか。 ・進んで自分のものの見方、感じ方、考え方を深めようとしているか。 ・進んで文語のきまりや古典特有の表現、漢文の特色や訓読のきまりを理解し、見通しをもって古典を学ぶ意義について考えを持とうとしているか。 | ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察、生徒による自己評価や相互評価等 |

【留意事項】授業に取り組む上でのアドバイスなど

- ・授業に臨むに当たって、読みなどの予習は最低限やっておいて下さい。
- ・事前にノート作りや意味調べもできる限りやっておきましょう。
- ・古語辞典や副教材は必ず持参しましょう。
- ・授業には積極的に参加し、分からなかった部分は質問して解決しましょう。
- ・提出物の期限は厳守してください。

年間指導計画

| 学期 | 月 | 単元名 | 学習内容 | SD Gs | 備考欄 |
|------|----|-------------------------|--|----------|-----|
| 第1学期 | 4 | 古文編 1 説話に親しむ | 【読むこと】『宇治拾遺物語』 ・古文の読み方を確認しよう。 ・説話の展開や内容のおもしろさを捉えよう。 | 4 | |
| | 5 | 漢文編 1 故事と小話 小話－四編 | 【読むこと】「蛇足」〔戦国策〕 ・漢文の読み方を確認しよう。 ・故事成語の現在の意味を確認しよう。 | 4 | |
| | 6 | 古文編 2 随筆を読む | 【読むこと】『徒然草』兼好法師 ・随筆に表れている作者のものの見方、感じ方、考え方を読み取ろう。 ・内容の面白さを理解しよう。 | 4 | |
| | 7 | 漢文編 2 唐詩と文 唐詩－八首 | 【読むこと】「静夜思」、「登岳陽樓」、「八月十五日夜」 ・語句の意味や修辞に注意して内容を理解しよう。 ・詩形、押韻など漢詩の基礎を確認しよう。 | | |
| 第2学期 | 9 | 古文編 3 作り物語を読む | 【読むこと】『竹取物語』 ・作り物語の内容を叙述に即して読み取ろう。 ・作品の成立した背景を踏まえて、内容の解釈を深めよう。 | 4 | |
| | 10 | 漢文編 3 史記を読む 項羽と劉邦 | 【読むこと】「鴻門之会」 ・登場人物の行動や心情、起こった出来事などを捉えよう。 ・時代背景を理解しよう。 | | |
| | 11 | 古文編 5 日記を読む | 【読むこと】『土佐日記』紀貫之 ・作者の境遇を確かめながら、日記に書かれた出来事や作者の心情を的確に捉えよう ・日記に表われている作者のものの見方、感じ方、考え方を理解しよう。 | 4 | |
| | 12 | 漢文編 4 中国の知恵 寓話 | 【読むこと】「侵官之害」韓非子 ・古代中国の様々な考え方に触れ、ものの見方や感じ方、考え方を深めよう。 ・寓話や故事成語の意味について理解を深めよう。 | 16 | |
| 第3学期 | 1 | 古文編 6 軍記物語を味わう | 【読むこと】『平家物語』 ・軍記物語に描かれている登場人物の生き方を読み取ろう。 ・朗読などを通して、軍記物語の内容や表現の特色への理解を深めよう。 | 4 | |
| | 2 | 漢文編 5 三国志の世界 十八史略 | 【読むこと】「水魚の交わり」 ・登場人物の行動や心情を捉え、人間の生き方について考えよう ・歴史上の人物を描いた作品を通して、歴史のおもしろさを味わおう。 | | |
| | 3 | 古文編 4 和歌の世界 | 【読むこと】「小倉百人一首の世界」あんの秀子 ・和歌に詠まれた情景や心情を捉え、自然や人間に対する古人の感性に触れよう。 ・百人一首に興味を持とう。 | 4 | |

【国語科 シラバス】

| | | | | | | |
|-------|-----------|-----|---|----------|------------|---------------------------------|
| 科目名 | 論理国語 | | | 使用 教材 | 教科書 副教材 | 新編論理国語（大修館書店） 学習課題ノート（大修館書店） |
| 学 年 | 2 | 単位数 | 2 | | | |
| 科・コース | 普通科 進学コース | | | | | |

【授業の概要】

国語で主体的・対話的で深い学びをとおして、実社会に必要な国語の知識や技能を身につけ、論理的に考えたり批判的に読んだりする力・他者に共感する力・想像する力を伸ばし、言葉で伝え合う力を高める態度を育てます。また、言葉がもつ価値への認識を深め、語彙を豊かにし、言葉を使いこなす力を身につけるとともに、生涯にわたって読書に親しむ態度を養い、他者や社会に対する関心を育む態度を育てます。

【学習方法と授業の進め方】

「論理を培う」「論理を活用する」の2部構成となっています。第2学年では第I部「論理を培う」を学習し、基礎的な論理的思考力を育みます。AI（人工知能）、コミュニケーション、自然科学、情報社会とメディア、環境問題、労働と生きがいなど、現代社会を生きる上で重要となるさまざまなテーマを押さえ、生徒の興味・関心を喚起します。また、抽象と具体、対比、主張と根拠、類推など、論理的な思考力を育成するために、論理的な文章を読んだり、論理的に文章を書いたり、論理的に意見を述べたりする活動をとおして、確かな力を身につけます。

【学習評価】

観点別評価

| 評価の観点 | 内容 | 評価方法 |
|----------------|---|--|
| ①知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができるか。 ・文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めることができるか。また文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができるか。 ・主張とその前提や反証 など情報と情報との関係について理解を深めることができるか。 | 定期考査、授業中の小テスト等 |
| ②思考・判断・表現 | <ul style="list-style-type: none"> ・立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれることを想定して、効果的な文章の構成や論理の展開を工夫することができるか。 ・多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にすることができるか。 ・個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど、文章全体の論理の明晰さを確かめ、自分の主張が的確に伝わる文章になるよう工夫しているか。 | 定期考査、論述、レポートの作成、発表、グループでの話し合い等 |
| ③主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> ・新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めようとしているか。 ・人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めることができるか。 ・設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすることができるか。 | ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察、生徒による自己評価や相互評価等 |

【留意事項】 授業に取り組む上でのアドバイスなど

- ・授業に臨むに当たって、読みなどの予習は最低限やっておいて下さい。
- ・漢字や語句の意味調べも、事前にできる限りやっておきましょう。
- ・授業には積極的に参加し、分からなかった部分は質問して、解決しましょう。
- ・提出物の期限は、厳守してください。
- ・日ごろから新聞などを読む習慣を身につけましょう。

年間指導計画

| 学期 | 月 | 単元名 | 学習内容 | SD Gs | 備考欄 | | |
|------|----|----------------------|---|----------|-----|--|--|
| 第1学期 | 4 | 1 論理と出会う | 【読む】「論理的な人」とはどういう人か（野矢茂樹） 「論理」についての筆者の考えを読み取る。 | 4 | | | |
| | 5 | 1 論理と出会う 2 具体と抽象 | 【読む】「論理」への第一歩 論理的に考える姿勢を身につける。 論理がなぜ必要なのかを理解する。 【読む】例題：突然変異と進化の関係 具体と抽象の関係を意識し、筆者の主張を読み取る。 【書く】具体と主張を使いこなそう 具体と抽象の関係について、理解を深める。 | | | | |
| | 6 | 3 対比をとらえる | 【読む】例題：米の種類を食文化 対比の関係を意識しながら、筆者の主張を読み取る。 【読む】デジタル地図から見える世界（松岡慧祐） 対比の关系到注意し、論理の展開を的確にとらえる。 【書く】対比を使って主張する 効果的な対比の用い方について、理解を深める。 《1学期まとめ 読解演習》 | | | | |
| | 7 | 5 論理的に書く | 【書く】小論文① 根拠を明示しながら論理的に主張を書く。 基本的な小論文の型を理解する。 | | | | |
| 第2学期 | 9 | 4 主張をつかむ | 【読む】例題：文化としての科学 主張と根拠の関係を意識し、筆者の主張を読み取る。 【読む】人工の自然（坂村健） 文章の構成や論理の展開に注意し、要旨を把握する。 【書く】要約の方法 文章のキーワードや、主張と根拠の関係を的確にとらえて要約する。 | 9 | | | |
| | 10 | 6 統計資料を活用する | 【読む】文章と資料を関連付けて読む 文章と統計資料の関係について考えを深める。 【読む】量の時代から質の時代へ（甲斐かおり） さまざまな統計資料を本文と関連づけながら読む。 | | | | |
| | 11 | 6 統計資料を活用する | 【読む】若者の「海外旅行離れ」は本当か？（小林直樹） データのまとめ方によって、主張が変わることを理解する。 【読む】統計資料を活用しよう 主張の根拠となるように、統計資料を効果的に活用する。 《2学期まとめ 読解演習》 | | | | |
| | 12 | 5 論理的に書く | 【書く】小論文演習 反論を想定し、説得力のある小論文を書く。 | | | | |
| 第3学期 | 1 | 7 比べて読む | 【読む】例題：言葉の揺れを認めるか 情報を比較・整理しながら、異なる立場の主張を読み取る。 【読む】紙の本はなくなる（内田樹） 異なる立場の文章を比べて読み、考えを深める。 | | | | |
| | 2 | 7 比べて読む 8 レポートを書く | 【読む】情報化と紙の本のゆくえ（宇野常寛） 具体例の役割や根拠に注意しながら筆者の主張を読み取る。 【書く】テーマを決め、問いを立てよう | 17 | | | |
| | 3 | 8 レポートを書く | 【書く】情報を収集・整理しよう 【書く】レポートをまとめよう | | | | |

※自己評価（観点別評価） A：十分理解した B：ほぼ理解した C：不十分である

【国語科 シラバス】

| | | | | | | |
|-------|-----------|-----|---|------|----------------|---------------|
| 科目名 | 文学国語 | | | 使用教材 | 教科書 | 新編文学国語（大修館書店） |
| 学 年 | 2 | 単位数 | 2 | 副教材 | 学習課題ノート（大修館書店） | |
| 科・コース | 普通科 進学コース | | | | | |

【授業の概要】

国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てます。主として「思考力、判断力、表現力等」の感性・情緒の側面の力を育成する科目として、深く共感したり豊かに想像したりして、書いたり読んだりする資質・能力の育成を重視します。

【学習方法と授業の進め方】

第Ⅰ部6単元・第Ⅱ部7単元の二部構成となっています。現代の高校生が読むに値するテーマを追求した新鮮な教材や評価の定まっている基本的な教材がバランスよく配置され、小説、随想、評論、詩歌、古典など多様な時代・ジャンルの文章に触れることができます。その中で、課題に沿って文学的な文章を書く活動に段階的に取り組めたり、主要な古典作品に触れて我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深められたりできます。言葉がもつ価値への認識を深め、生涯にわたって読書に親しみ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を身に着けます。

【学習評価】

| 観点別評価 | | |
|----------------|--|--|
| 評価の観点 | 内容 | 評価方法 |
| ①知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解しているか ・情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにできているか ・文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使うことができるか。 ・文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深められているか。 | 定期考査、授業中の小テスト等 |
| ②思考・判断・表現 | <ul style="list-style-type: none"> ・文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にし、読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫しているか。また、読み手を引き付ける独創的な文章になるよう工夫しているか。 ・他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察したり、文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察したりできているか。 ・設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができているか。 | 定期考査、論述、レポートの作成、発表、グループでの話し合い等 |
| ③主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えようとしているか。 ・文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めようとしているか。 ・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めようとしているか。 | ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察、生徒による自己評価や相互評価等 |

【留意事項】 授業に取り組む上でのアドバイスなど

- ・授業に臨むに当たって、読みなどの予習は最低限やっておいて下さい。
- ・漢字や語句の意味調べも、事前にできる限りやっておきましょう。
- ・授業には積極的に参加し、分からなかった部分は質問して、解決しましょう。
- ・提出物の期限は、厳守してください。
- ・日ごろから小説や詩歌、文学作品などを読む習慣を身につけましょう。

年間指導計画

| 学期 | 月 | 単元名 | 学習内容 | SD Gs | 備考欄 |
|------|----|-------------|---|----------|-----|
| 第1学期 | 4 | 1 明日をひらく | 【読む】 そとみとなかみ (角田光代) 筆者のいう「外側」と「内側」を理解し、外側と内側の関係について考える。 | | |
| | 5 | 古典の世界1 | 【読む】 星取り (醒睡笑) 児の飴食ひたること (沙石集) 話のおもしろさ・教訓をとらえる。 | | |
| | 6 | 2 小説を読む | 【読む】 晴れた空の下で (江國香織) 本文の描写や言葉遣いから「わし」の性格や心情をとらえる。 《文学の窓1》 | | |
| | | 3 詩を味わう | 【読む】 道程 (高村光太郎)・小景異状 (室生犀星) 詩のさまざまな表現と、その効果について考える。 《文学の窓2》 | | |
| | 7 | 1 明日を開く | 【書く】 言葉でスケッチ 読み手の共感が得られるような言葉や表現を工夫して書く。 《文学の窓3》 | | |
| 第2学期 | 9 | 4 名作を読む (一) | 【読む】 山月記 (中島敦) 登場人物の生き方から、自分自身の生き方に関する考えを深める。 漢文訓読調の文章の魅力を味わう。 | | |
| | 10 | 古典の世界2 | 【読む】 かぐや姫の昇天 (竹取物語) かぐや姫の心情とその変化を読み取る。 【読む】 月やあらぬ (伊勢物語) 男が月を見て感じた心情を読み取る。 | | |
| | 11 | 5 社会に生きる | 【読む】 鞆 (阿部公房) この話に込められた寓意を読み取り、考えを深める。 《文学の窓3》 | 10 | |
| | 12 | 恋の歌 | 【読む】 現代の恋・近代の恋・古典の恋 それぞれの作品に描かれている情景や心情を読み取る。 | | |
| 第3学期 | 1 | 6 表現を味わう | 【読む】 身内ほど厄介なものはない (米原万里) 柿 (畠中恵) さまざまな文章を読み、構成や表現の工夫を読み取る。 | | |
| | 2 | 古典の世界3 | 【読む】 はしたなきもの (枕草子) 手のわろき人の (徒然草) 作品に表れている作者の感性・考え方をとらえる。 | 17 | |
| | 3 | 6 表現を味わう | 【書く】 思いを言葉に | | |

【地歴科 シラバス】

| | | | | | | |
|-------|----------------------|-----|---|----------|-----|--|
| 科目名 | 日本史探究 | | | 使用 教材 | 教科書 | 日本史探究『詳説日本史』（山川出版社） |
| 学 年 | 2 | 単位数 | 4 | | 副教材 | 詳説日本史図録（山川出版社） 詳説日本史 10 分間テスト日本史探究（山川出版社） |
| 科・コース | 普通科 進学コース（文系 日本史選択者） | | | | | |

【授業の概要】

日本の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める科目です。

【学習方法と授業の進め方】

原始・古代社会から近世前半期までの範囲を時代順に学習していきます。1時間の授業で、およそ教科書2・3ページのペースで進むので、授業前にその範囲を熟読し読めない文字をなくしておいて下さい。

【学習評価】

観点別評価

| 評価の観点 | 内容 | 評価方法 |
|----------------|---|--|
| ①知識・技能 | 日本の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえ学習します。また諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を理解し知識を深めます。 | 定期テストにおいて、知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題について問われます。例えば生徒が文章による説明をしたり、諸資料から情報をまとめる技術を用いたりする場面を設けるなどします。 |
| ②思考・判断・表現 | 日本の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察します。またグループワークを通して歴史にみられる課題を把握、考察し人前で説明したり、それらをもとに議論したりする力を養います。 | 定期テストだけではなく、レポートの作成、発表、グループでの話し合いなどの授業を通じて評価します。教科書の各章、各単元冒頭の「問い」や「深める」、また、「資料で深める歴史の世界」で設定されている課題などを有効に活用し、生徒の思考力・判断力・表現力を適切に評価します。 |
| ③主体的に学習に取り組む態度 | 日本の歴史の展開に関わる諸事象についての課題を主体的に探究しようとする態度を養います。授業態度や課題への取り組みなどを通じて知識や自ら考え行動する力を育成します。 | 主体的に学習に取り組む態度の評価に際しては、授業に積極的に取り組む姿勢や学期ごとにノートやワーク・レポートなどを提出し評価します。 |

【留意事項】 授業に取り組む上でのアドバイスなど

- ・まず2年生では、どんな事でもいいから、歴史に関心を持って欲しいと思います。
- ・図や資料から何が読み取れるか考え文章に落とし込めるようにしましょう。
- ・提出物は、提出期限を必ず守って下さい。
- ・授業に積極的に参加し発問に対して応答できるようにしましょう。

年間指導計画

| 学期 | 月 | 単元名 | 学習内容 | SD Gs | 備考欄 |
|------|----|-----------------------|--|---------------|-----|
| 第1学期 | 4 | 日本文化のあけぼの 古墳とヤマト政権 | ① 人類文化の発生を考え、日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解する。 ② 中国の歴史書の記事を理解し、日本列島のヤマト政権や中国・朝鮮半島諸国との交流について多面的・多角的に考察する。 | 13 2 | |
| | 5 | 律令国家の形成 | ① 律令国家が成立するまでの政治過程について考察し、律令にもとづく国内統治体制について理解する。 | 4 | |
| | 6 | 貴族政治の展開 | ① 平安前期を中心とした古代国家の推移について、東北経営や政治改革、地方統治の変容を踏まえて、律令体制の変質を考察する。 ② 藤原氏による摂関政治の成立過程と政治運営への影響について考察する。 | | |
| | 7 | 院政と武士の躍進 | ① 院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。 ② 政治の動向、国際関係・経済・文化への対応を踏まえて、平氏政権の特性について考察する。 | | |
| 第2学期 | 9 | 武家政権の成立 | ① 鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な武家政権に成長していく過程を理解する。 ② 武士の生活と地方支配を通じて、土地に対する実質的な支配権を地頭が掌握するに至った過程を考察する。 | 2 5 | |
| | 10 | 武家政権の成立 | ① モンゴル襲来による政治・経済・文化への影響が、幕府の衰退につながっていくことを理解する。 ② 非御家人に対する権限拡大など、幕府勢力が西国に浸透したことの意義を考察する。 | | |
| | 11 | 武家社会の成長 | ① 南北朝の動乱から室町幕府の成立と安定について、日本諸地域の動向などを踏まえて考察する。 ② 庶民の活動が社会秩序の変革の原動力として成長していったことを踏まえて、幕府の動揺や下剋上の風潮を考察する。 | 10 2 13 | |
| | 12 | 武家社会の成長 | ① 武家政権の支配の進展や東アジア世界との交流に着目して、武家文化と公家文化および、大陸文化と伝統文化の関わりについて理解する。 | | |
| 第3学期 | 1 | 武家社会の成長 | ① 応仁の乱以降、地方権力として登場した戦国大名や各地に展開した都市について、諸地域の地理的条件と関連づけて考察する。 | | |
| | 2 | 近世の幕開け | ① 大航海時代と呼ばれる世界史的背景を踏まえて、ヨーロッパ人の東アジアへの進出とその影響を考察する。 ② 織田信長の統一事業、豊臣秀吉の天下統一、秀吉の朝鮮侵略と続く織豊政権の特色と意義、その後の時代への影響について理解する。 | | |
| | 3 | 幕藩体制の成立 | ① 江戸幕府の成立による幕藩体制の確立過程を理解する。 | 2 | |

【地歴科 シラバス】

| | | | | | | |
|-------|-----------|-----|---|----------|-----|----------------|
| 科目名 | 世界史探究 | | | 使用 教材 | 教科書 | 『世界史探究』東京書籍 |
| 学 年 | 2 | 単位数 | 4 | | 副教材 | 『アカデミア世界史』浜島書店 |
| 科・コース | 普通科 進学コース | | | | | |

【授業の概要】

・社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指します。

・諸外国の国際事情や宗教事情を含めた授業で、文化の多様性や現代社会の特質を広い視野から考察し、国際理解や国際感覚を身につけるようにします。

【学習方法と授業の進め方】

・基本的には教科書を中心に学習を進めます。必要に応じて史料集、プリント、動画などを使用します。また、配布された chromebook も使うことがあるので準備してください。

【学習評価】

「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点から総合的に評価する。

観点別評価

| 評価の観点 | 内容 | 評価方法 |
|----------------|---|--|
| ①知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解しているか。 諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけられたか。 | <ul style="list-style-type: none"> 定期考査の知識・理解に関する問題 ワークや問題集 課題プリントへの取り組み ノートの作成状況 |
| ②思考・判断・表現 | <ul style="list-style-type: none"> 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多方面・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりすることが出来たか。 考察、抗争したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりすることができたか。 | <ul style="list-style-type: none"> 定期考査の思考・応用問題（資料読解・論述問題） ワークや問題集 課題プリントへの取り組み ノートの作成状況 |
| ③主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象について、見通しを持って学習に取り組もうとしていたか。 国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとしたか。 | <ul style="list-style-type: none"> 学習活動への参加の仕方や態度 討論や発表 課題プリントへの取り組み ノートの作成状況 |

【留意事項】 授業に取り組む上でのアドバイスなど

・世界史は、個々の国や地域について時代順に追っていく「縦」と、世界全体の動きや出来事を同時代ごとに見ていく「横」、両方の視点が必要になります。したがって、教科書に載っている人物名や年号、事件などといった用語を覚えるということではなく、「歴史の流れ」や「原因と結果」をつかむようにして下さい。単に歴史的事項を暗記するのではなく、当時の社会状況と結びつけて捉えることが重要です。諸資料を活用し多面的・多角的に考察しましょう。

・ノート作りは、単に板書事項を書き写すのではなく、話の内容もメモを取る習慣を身につけましょう。

年間指導計画

| 学期 | 月 | 単元名 | 学習内容 | SD Gs | 備考欄 |
|------|----|--|---|-------------------------|-----|
| 第1学期 | 4 | 序章 世界史へのまなざし 第1編 第1章 古代文明の出現 | ・世界史探究の導入としての位置づけを踏まえ、生徒が現在と異なる過去や現在につながる過去に触れ、世界史学習の意味や意義に気づくようにする。 ・各地域の古代文明について、その共通点や相違点、それらが自然環境とどのように関係しているかなどについて理解する。 | 16 | |
| | 5 | 第2章 西アジアと地中海世界 | ・西アジアと地中海周辺国家がどのように影響を及ぼしあい、どのような共通点をもっているかなどについて理解する。 ・この世界で成立した宗教が現在の世界の宗教分布とどのように関係しているかについて理解する。 | 1 2 10 16 | |
| | 6 | 第3章 南アジア | ・南アジア地域を特徴づける「多様ななかの統一」とはどのようなことなのかなどについて理解する。 | 10 16 | |
| | 7 | 第4章 東南アジア 第5章 東アジアと中央ユーラシア | ・東南アジア地域における国家形成が交易や思想・文化とどのように関係しているのかなどについて理解する。 ・東アジアと中央ユーラシアの古代国家はどのようにして生まれたのか、また古代国家の誕生と発展が社会と文化に与えた影響や、それによって生みだされた地域の特色について理解する。 | 10 16 | |
| 第2学期 | 9 | 第6章 アフリカ,オセアニア,古アメリカ 第2編 第7章 イスラーム世界の拡大と繁栄 | ・ユーラシア大陸以外の地域に成立した文明の特徴について、自然環境との関わりに注目しながら理解する。 ・アジア・アフリカの広大な地域が、イスラーム文明圏としてまとまった理由などについて理解する。 | 10 16 | |
| | 10 | 第8章 中世ヨーロッパ | ・9世紀から15世紀にかけて、ヨーロッパ世界ではどのような政治、経済、社会、文化の変動がおこったのか、また、それらの変動の結果は後世のヨーロッパにどのように継承されていったのかなどについて理解する。 | 1 2 4 10 16 | |
| | 11 | 第9章 中華世界の変容とモンゴル帝国 | ・歴史上かつてない規模の世界帝国であるモンゴル帝国はどのようにして生まれ、どのように世界を結びつけたのかなどについて理解する。 | 10 16 | |
| | 12 | 第10章 インド洋海域世界の発展と東南アジア | ・インドと東南アジアにおけるイスラームの広がりが一様でなかった要因などについて理解する。 | 16 | |
| 第3学期 | 1 | 第11章 大交易時代と世界の一体化 | ・大交易時代に、なぜ世界の各地で社会がほぼ同時に大きく変化したのか、また、世界の諸地域間の関係は、前後の時代と比べてどのように特徴づけられるのかなどについて理解する。 | 10 16 17 | |
| | 2 | 第12章 ユーラシア諸帝国の繁栄 | ・16世紀から18世紀にかけて、アジア諸地域に成立した諸帝国が比較的安定した社会を維持できたのはなぜか、また経済的繁栄はどのようにもたらされたのかなどについて理解する。 | 10 16 | |
| | 3 | 第13章 主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大 | ・16世紀から17世紀にかけてヨーロッパにあらわれた新しい国家には、どのような特徴があったのか、また、その形成にはどのような要因が働いていたのかなどについて理解する。 | 10 16 | |

【地歴科 シラバス】

| | | | | | | |
|-------|---|-----|---|----------|-----|---------------------------------|
| 科目名 | 地理総合 | | | 使用 教材 | 教科書 | 高等学校新地理総合（帝国書院） 新詳高等地図（帝国書院） |
| 学 年 | 2 | 単位数 | 2 | | 副教材 | 高等学校新地理総合ノート（帝国書院） |
| 科・コース | 普通科 特別進学選抜コース・特別進学コース・特別進学国際コース・進学コース 総合ビジネス科 | | | | | |

【授業の概要】

社会で役立つ実用的な資質・能力を身につける新科目として必履修化され、以下のことを目的としている科目です。

- ・持続可能な社会づくりを目指し、環境条件と人間の営みとの関りに着目して現代の地理的な諸課題を考察します。
- ・グローバルな視座から国際理解や国際協力の在り方を、地域的な視座から防災などの諸課題への対応を考察します。
- ・地図や地理情報システムなどを用いることで、汎用的で実践的な地理的技能を習得することを目指します。

【学習方法と授業の進め方】

- ・授業は基本的には講義及び対話形式です。教科書と準拠ノートを中心にすすめます。
- ・教科書の図や地図帳、デジタル教材を通して、図や統計資料から何が読み取れるのか、その力を養います。
- ・必要に応じて動画などの視聴覚教材やプリントを使用した授業を実施します。
- ・単元によっては、ペアワークやグループワークなどによる授業展開や他の科目と関連付けた学習を実施します。

【学習評価】

定期考査及び下記の観点別評価により総合的に評価する。

観点別評価

| 評価の観点 | 内容 | 評価方法 |
|----------------|---|---|
| ①知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・地理に関わる諸事情に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解できたか。 ・地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ「効果的に調べまとめる技能が身に付いたか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査の知識・理解に関する問題 ・準拠ノート ・課題プリントへの取り組み ・ノートの作成状況 |
| ②思考・判断・表現 | <ul style="list-style-type: none"> ・地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察できたか。 ・地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養うことができたか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査の思考・応用問題（統計資料読解・論述問題） ・準拠ノート ・課題プリントやレポートへの取り組み ・ノートの作成状況 |
| ③主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> ・地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うことができたか。 ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深めることができたか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への参加の仕方や態度 ・討論や発表 ・課題プリントやレポートへの取り組み ・ノートの作成状況 |

【留意事項】 授業に取り組む上でのアドバイスなど

- ・日常的に新聞やテレビのニュース・報道番組に興味を持つことから始めましょう。
- ・地図や統計資料を見る、考える、プリントに取り組むなどすべての作業が学習です。常に主体的に大切に取り組みましょう。
- ・ノートは板書をそのまま書き写すだけでなく、ポイント等がわかりやすいように話の内容もメモをとりましょう。
- ・提出物は、提出期限を守って下さい。また、丁寧に前向きにしっかり取り組みましょう。
- ・授業に集中し、積極的・主体的に臨みましょう。

年間指導計画

| 学期 | 月 | 単元名 | 学習内容 | SDGs | 備考欄 |
|------|----|--|--|--------------------|-----|
| 第1学期 | 4 | 第1部 地図でとらえる現代世界 第1章 地図と地理情報システム 地図上の位置と時差 地図の役割と種類 第2章 結びつきを深める現代世界 現代世界の国家と領域 | ○地球上の位置の違いは、私たちの生活にどのような影響を与えているか。また、時差は私たちの生活とどのように結びついているか。 ○地図や地理情報システムにはどのような役割や種類があるのか。また、私たちの生活にどのように役立っているのか。 ○国家の領域や国境はどのように定まっているのか。また、日本の位置や領域にはどのような特徴があるのか。 | | |
| | 5 | グローバル化する世界 第2部 国際理解と国際協力 第1章 生活文化の多様性と国際理解 生活文化の多様性 世界の地形と人々の生活 | ○世界の国々は、貿易や交通、通信、観光などの要素によってどのように結びついているのか。 ○地球上の多様な地形と人々はどのように関わり合っているのか。世界各地でどのような生活が営まれているのか。 | 16 17 | |
| | 6 | 世界の気候と人々の生活 | ○人々の生活はそれぞれの気候要素とどのように関わりあっているのか。世界各地ではどのような生活が営まれているのか。 | 13 14 15 | |
| | 7 | 乾燥した大陸と太平洋の島々での生活 モンスーンの影響を受ける地域での生活 世界の言語・宗教と人々の生活 イスラームと人々の生活の関わり ヒンドゥー教と人々の生活と関わり | ○オセアニアは、地形や気候が多様であり、このような自然環境を生かしてどのような生活文化や産業が育まれてきたのか。 ○季節風の影響を強く受けてきた東南アジアでは、気候を生かして、どのような生活文化が育まれてきたのか。 ○言語や宗教は、人々の生活にどのような影響を与えているのか。 ○中央アジアから北アフリカにかけての地域の生活文化は、イスラームからどのような影響を受けているのか。 ○インドの人々の暮らしに、ヒンドゥー教はどのように関わっているのか。 | | |
| 第2学期 | 9 | 歴史的背景と人々の生活 移民の歴史と人々の生活の関わり 植民地支配の歴史と人々の生活の関わり 国家体制の変化と人々の生活の関わり 世界の産業と人々の生活 | ○世界各地の多様な環境の下で育まれてきた生活文化は、歴史的な出来事の積み重ねにより、どのような影響を受け変化を遂げてきたのか。 ○さまざまな地域の人々が移り住んできたラテンアメリカでは、多様な文化の融合によって、どのような生活文化が形成されてきたのか。 ○植民地支配を受けた国が多いサハラ以南アフリカでは、植民地支配の歴史と人々の生活文化や産業は、どのように関わり合っているか。 ○かつて社会主義国だったロシアで、国家体制の変化が、人々の生活や社会にどのような変化を与えたのか。 ○地域の自然環境などを生かした産業の発展は、人々の生活にどのような影響を与えてきたのか。産業のグローバル化によって、人々の生活はどのように変化してきたのか。 | 8 9 10 15 | |
| | 10 | 産業力が世界の生活文化に与える影響 経済成長による人々の生活の変化 地域統合が人々の生活や産業に与える影響 第2章 地球的課題と国際協力 複雑に絡み合う地球的課題 | ○世界標準の工業製品が生み出されたり、世界の食を支える農産物が生産されたりしているアメリカ合衆国の産業は、人々の生活にどのような影響を与えているのか。 ○第二次世界大戦後に急速に経済成長が進んだ中国や韓国などでは、どのような生活文化がみられ、経済成長の影響を受けてどのように変化しているのか。 ○EUの統合によって、ヨーロッパの人々の生活文化はどのように変化してきたのか。 | 8 9 10 15 | |

| | | | | |
|------|---|--|-------------------|--|
| | 地球環境問題 | ○現代世界に存在するさまざまな地球的課題の背景には何があるのか。課題の解決に向けて私達には何ができるのか。 ○人間の経済活動などにより、世界ではどのような地球環境問題がみられ、どのような取り組みが行われているのか。 | 13 14 15 | |
| | 11 資源・エネルギー問題 人口問題 | ○世界の資源やエネルギーの利用にはどのような課題があるのか。持続可能なエネルギーの利用方法とはどのようなものか。 ○世界には、国や地域によってどのような人口問題があり、どのような対策が行われているのか。 | 7 8 9 10 | |
| | 12 食料問題 都市・居住問題 | ○飢餓や飽食のような食糧需給の偏りが生じるのはなぜか。食料問題を解決するためには、どのような取り組みが必要か。 ○世界には、国や地域によってどのような都市・居住問題があり、どのような対策が行われているのか。 | 2 11 | |
| 第3学期 | 1 第3部 持続可能な地域づくりと 私たち 第1章 自然環境と防災 日本の自然環境 地震・津波と防災 火山災害と防災 | ○日本の地形や気候には、どのような特徴があるのか。 ○地震や津波は、どのような被害をもたらすのか。地震や津波の発生に備えて、どのような取り組みが必要なのか。 ○火山はどのような恵みや災害をもたらすのか。火山災害に備えて、どのような取り組みが必要か。 | 11 13 | |
| | 2 気象災害と防災 自然災害への備え | ○気象災害にはどのような種類があり、どのような被害をもたらすのか。気象災害に備えて、どのような取り組みが必要か。 ○自然災害への日頃の備えには、どのようなものがあるのか。災害発生時の危機管理体制は、どのように整備されているのか。 | 11 13 | |
| | 3 第2章 生活圏の調査と地域の展望 生活圏の調査と地域の展望 | ○生活圏の抱える地域的課題を探究するためには、どのような方法で地域の特徴をとらえ、どのように課題解決のための展望をみいだしていけばよいのか。 | | |

数学科シラバス（普通科進学コース文系）

| | | | | | | |
|-----|-----|-----|---|----------|--------------------|---------------|
| 科目名 | 数学Ⅱ | | | 使用 教材 | 教科書 | 高等学校数学Ⅱ（数研出版） |
| 学 年 | 2 | 単位数 | 2 | 副教材 | Study-Up 数学Ⅱ（数研出版） | |

【授業の概要】

数学Ⅱは高校で学ぶ数学の中心となる科目です。したがって以下のような目標とします。
式と証明・高次方程式・図形と方程式・三角関数について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用できるようにする。

【学習方法と授業の進め方】

1. 授業は教科書を中心として、説明・演習の順に進めていきますので、説明が始まったらよく話を聞くようにしてください。
2. 計算力をつけるために、教科書や問題集の問題をしっかりと解いていきましょう。

【学習評価】

年5回行われる定期考査の成績に宿題などの家庭学習、授業態度、出欠席の回数などを平常点として加え総合的に評価を行います。

観点別評価

| 評価の観点 | 内容 | 評価方法 |
|----------------|--|---|
| ①知識・技能 | 数量関係や図形などの基本的な概念や法則を理解し、事象を数学的に解釈したりする技能を身につける。 | 定期テスト 小テスト プリント など |
| ②思考・判断・表現 | 数学を活用し事象を論理的に考察することで、法則や図形などの性質を発見できる。 数学的な表現を用いて事象を簡潔・的確に表す力を養う。 | 定期テスト 小テスト プリント グループ学習等の発表 レポート など |
| ③主体的に学習に取り組む態度 | 数学的な活動の楽しさや数学の良さを実感し、数学の知識を生活や学習に活かそうとする態度、問題解決能力を養う。 | 授業態度 課題提出 など |

【留意事項】

【予習】 教科書を読んで、例題を参考に自分で問題を解いてみてください。

【授業】 予習でわからなかったところを解決するつもりで臨んでください。演習の答え合わせはどこをなぜ間違えたかを考えながら行ってください。

【復習】 自分の手で何度も解きなおします。宿題以外に問題集も各自解き進めておいてください。

※ ノートは途中の計算もきちんと記入する！ ※ わからないところはそのままにせずに必ず質問を！

年間指導計画

| 学期 | 月 | 単元名 | 学習内容 | SDGs | 備考欄 |
|------|----|------------------------|---------------------------------|------|-----|
| 第1学期 | 4 | <数学Ⅱ> ・式と証明 式と計算 | 3次式の展開と因数分解 2項定理 多項式の割り算 | 4 | |
| | 5 | 等式と不等式の証明 | 分数式とその計算 恒等式 等式の証明 不等式の証明 | | |
| | 6 | ・複素数と方程式 複素数と方程式の解 | 複素数とその計算 2次方程式の解 解と係数の関係 | | |
| | 7 | 高次方程式 | 剰余の定理と因数定理 高次方程式 | | |
| 第2学期 | 9 | ・図形と方程式 点と直線 | 直線上の点 平面上の点 直線の方程式 | | |
| | 10 | 円 | 2直線の関係 円の方程式 円と直線 | | |
| | 11 | 軌跡と領域 | 2つの円 軌跡と方程式 | | |
| | 12 | | 不等式の表す領域 | | |
| 第3学期 | 1 | ・三角関数 三角関数 | 角の拡張 三角関数 三角関数のグラフ | 9 | |
| | 2 | | 三角関数の性質 三角関数の応用 | | |
| | 3 | 三角関数の加法定理 | 加法定理 加法定理の応用 | | |

数学科シラバス（普通科進学コース理系）

| | | | | | | |
|-----|-----|-----|---|----------|-----|--------------------|
| 科目名 | 数学Ⅱ | | | 使用 教材 | 教科書 | 高等学校数学Ⅱ（数研出版） |
| 学 年 | 2 | 単位数 | 4 | | 副教材 | Study-Up 数学Ⅱ（数研出版） |

【授業の概要】

数学Ⅱは高校で学ぶ数学の中心となる科目です。したがって以下のような目標とします。
式と証明・高次方程式・図形と方程式・いろいろな関数及び微分・積分の考えについて理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用できるようにする。

【学習方法と授業の進め方】

1. 授業は教科書を中心として、説明・演習の順に進めていきますので、説明が始まったらよく話を聞くようにしてください。
2. 計算力をつけるために、教科書や問題集の問題をしっかりと解いていきましょう。

【学習評価】

年5回行われる定期考査の成績に宿題などの家庭学習、授業態度、出欠席の回数などを平常点として加え総合的に評価を行います。

観点別評価

| 評価の観点 | 内容 | 評価方法 |
|----------------|--|---|
| ①知識・技能 | 数量関係や図形などの基本的な概念や法則を理解し、事象を数学的に解釈したりする技能を身につける。 | 定期テスト 小テスト プリント など |
| ②思考・判断・表現 | 数学を活用し事象を論理的に考察することで、法則や図形などの性質を発見できる。 数学的な表現を用いて事象を簡潔・的確に表す力を養う。 | 定期テスト 小テスト プリント グループ学習等の発表 レポート など |
| ③主体的に学習に取り組む態度 | 数学的な活動の楽しさや数学の良さを実感し、数学の知識を生活や学習に活かそうとする態度、問題解決能力を養う。 | 授業態度 課題提出 など |

【留意事項】

【予習】 教科書を読んで、例題を参考に自分で問題を解いてみてください。

【授業】 予習でわからなかったところを解決するつもりで臨んでください。演習の答え合わせはどこをなぜ間違えたかを考えながら行ってください。

【復習】 自分の手で何度も解きなおします。宿題以外に問題集も各自解き進めておいてください。

※ ノートは途中の計算もきちんと記入する！ ※ わからないところはそのままにせずに必ず質問を！

年間指導計画

| 学期 | 月 | 単元名 | 学習内容 | SDGs | 備考欄 |
|------|----|------------------------------------|--|------|-----|
| 第1学期 | 4 | <数学II> ・式と証明 式と計算 | 3次式の展開と因数分解 2項定理 多項式の割り算 分数式とその計算 恒等式 | 4 | |
| | 5 | 等式と不等式の証明 ・複素数と方程式 複素数と方程式の解 | 等式の証明 不等式の証明 複素数とその計算 2次方程式の解 解と係数の関係 | | |
| | 6 | 高次方程式 ・図形と方程式 点と直線 円 | 剰余の定理と因数定理 高次方程式 直線上の点 平面上の点 直線の方程式 2直線の関係 円の方程式 円と直線 2つの円 | | |
| | 7 | 軌跡と領域 | 軌跡と方程式 不等式の表す領域 | | |
| 第2学期 | 9 | ・三角関数 三角関数 | 角の拡張 三角関数 三角関数のグラフ 三角関数の性質 | | |
| | 10 | 三角関数の加法定理 | 三角関数の応用 加法定理 加法定理の応用 | | |
| | 11 | ・指数・対数関数 指数関数 | 指数の拡張 指数関数 | | |
| | 12 | 対数関数 | 対数とその性質 対数関数 常用対数 | | |
| 第3学期 | 1 | ・微分と積分 微分係数と導関数 関数の値の変化 | 微分係数 導関数とその計算 接線の方程式 関数の増減と極大・極小 | | |
| | 2 | 積分法 | 関数の増減・グラフの応用 不定積分 定積分 | | |
| | 3 | | 定積分と面積 | | |

数学科シラバス（普通科進学コース理系）

| | | | | | | |
|-----|-----|-----|---|----------|-----|--------------------|
| 科目名 | 数学B | | | 使用 教材 | 教科書 | 高等学校数学B（数研出版） |
| 学 年 | 2 | 単位数 | 2 | | 副教材 | Study-Up 数学B（数研出版） |

【授業の概要】

数学Bは高校で学ぶ数学の中心となる科目です。したがって以下のような目標とします。
 数列、統計について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用できるようにする。

【学習方法と授業の進め方】

1. 授業は教科書を中心として、説明・演習の順に進めていきますので、説明が始まったらよく話を聞くようにしてください。
2. 計算力をつけるために、教科書や問題集の問題をしっかりと解いていきましょう。

【学習評価】

年5回行われる定期考査の成績に宿題などの家庭学習、授業態度、出欠席の回数などを平常点として加え総合的に評価を行います。

観点別評価

| 評価の観点 | 内容 | 評価方法 |
|----------------|--|---|
| ①知識・技能 | 数量関係や図形などの基本的な概念や法則を理解し、事象を数学的に解釈したりする技能を身につける。 | 定期テスト 小テスト プリント など |
| ②思考・判断・表現 | 数学を活用し事象を論理的に考察することで、法則や図形などの性質を発見できる。 数学的な表現を用いて事象を簡潔・的確に表す力を養う。 | 定期テスト 小テスト プリント グループ学習等の発表 レポート など |
| ③主体的に学習に取り組む態度 | 数学的な活動の楽しさや数学の良さを実感し、数学の知識を生活や学習に活かそうとする態度、問題解決能力を養う。 | 授業態度 課題提出 など |

【留意事項】

【予習】 教科書を読んで、例題を参考に自分で問題を解いてみてください。

【授業】 予習でわからなかったところを解決するつもりで臨んでください。演習の答え合わせはどこをなぜ間違えたかを考えながら行ってください。

【復習】 自分の手で何度も解きなおします。宿題以外に問題集も各自解き進めておいてください。

※ ノートは途中の計算もきちんと記入する！ ※ わからないところはそのままにせずに必ず質問を！

年間指導計画

| 学期 | 月 | 単元名 | 学習内容 | SDGs | 備考欄 |
|------|----|---------------------------|--------------------------|------|-----|
| 第1学期 | 4 | <数学B> ・数列 等差数列と等比数列 | 数列と一般項 等差数列 | 4 | |
| | 5 | | 等差数列の和 等比数列 等比数列の和 | | |
| | 6 | いろいろな数列 | 和の記号 Σ 階差数列 | | |
| | 7 | | いろいろな数列の和 | | |
| 第2学期 | 9 | 漸化式と数学的帰納法 | 漸化式と数列 数学的帰納法 | | |
| | 10 | ・統計的な推測 確率分布 | 確率変数と確率分布 確率変数の期待値と分散 | 9 | |
| | 11 | | 確率変数の和と積 二項分布 | | |
| | 12 | | 正規分布 | | |
| 第3学期 | 1 | 統計的な推測 | 母集団と標本 標本平均の分布 | | |
| | 2 | | 推定 | | |
| | 3 | | 仮説検定 | | |

【理科 シラバス】

| | | | | | | |
|-------|----------------|-----|---|----------|-----|--------------------------------|
| 科目名 | 地学基礎 | | | 使用 教材 | 教科書 | 東京書籍「地学基礎」(地基 701) |
| 学 年 | 2 | 単位数 | 2 | | 副教材 | ニューサポート地学基礎、スクエア最新図説地学 (第一学習社) |
| 科・コース | 普通科 進学コース (文系) | | | | | |

【授業の概要】

- ・日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。
- ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- ・地球や地球を取り巻く環境に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と自然環境の保全に寄与する態度を養う。

【学習方法と授業の進め方】

- ① 授業は、担当者作成のプリント、教科書、図表などを使用して進めていきます。
- ② 板書事項をノートの写し取るだけでは定着しません。先生の説明を自分でかみ砕き反芻して理解に努めてみましょう。
- ③ 授業内容の復習や問題演習などしっかり取り組むこと。復習が最重要です。
- ④ 新聞やテレビなどの科学的な話題に目を向け、興味や関心を持つように心がけよう。

【学習評価】

観点別評価

| 評価の観点 | 内容 | 評価方法 |
|----------------|---|--|
| ①知識・技能 | 日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。 | ・定期考査の知識・理解に関する問題 ・課題への取り組み |
| ②思考・判断・表現 | 地球や地球を取り巻く環境を対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、野外観察、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法を習得するとともに、報告書の作成や発表を通して、何が分かるようになったかを表現することができる。 | ・定期考査の思考・応用問題(資料読解・論述問題) ・課題への取り組み ・観察・実験等 |
| ③主体的に学習に取り組む態度 | 地球や地球を取り巻く環境に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度が養われている。 自然環境の保全に寄与する態度が養われている。 | ・学習活動への参加の仕方や態度 ・観察・実験・発表等 |

【留意事項】 授業に取り組む上でのアドバイスなど

- ・地学基礎では、日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目標としています。
- ・自然現象(天候や災害等)に興味を持って、「なぜ?」という視点で日々生活していくことが、深い学びに繋げる鍵となります。
- ・地球の今後と、身の回りの環境について学び、「持続可能な生活を維持するための知識」を吸収し、これからの社会の担い手として確かな学力を身に付けてください。

年間指導計画

| 学期 | 月 | 単元名 | 学習内容 | SD Gs | 備考欄 |
|------|----|-----------------------------|---|----------|-----|
| 第1学期 | 4 | 1編 私たちの大地 1章 大地とその動き | ・地球の表面から内部にかけての構造や構成物質について学ぶ。 | 11 | |
| | 5 | 2章 火山活動と地震 | ・火山活動の仕組みや、火山噴出物について学ぶ。 ・地震が起こる仕組みや、その時起こる災害について学ぶ。 | 9 | |
| | 6 | 2編 私たちの空と海 1章 地球の熱収支 | ・大気構造について学び、4つの層の特徴を理解する。 | 13 | |
| | 7 | 2章 大気と海水の運動 | ・地球の熱収支・大気の大循環・海水とその運動について学ぶ。 | 14 | |
| 第2学期 | 9 | 3編 私たちの宇宙の誕生 1章 宇宙の構造と進化 | ・恒星などの集団である銀河が分布している宇宙について、その誕生と現在の姿について学ぶ。 | 7 | |
| | 10 | 4編 私たちの地球の歴史 1章 地層と化石の観察 | ・地層が形成される仕組みと地層や岩石に見られる地質構造について学ぶ。 | 12 | |
| | 11 | 2章 古生物の変遷と地球環境 | ・古生物の変遷などに基づいて地質時代が区分されること及び地球環境がどのように移り変わってきたのかを学ぶ。 | 11 | |
| | 12 | 5編 地球に生きる私たち 1章 日本の自然の恵み | ・日本の自然環境について景観や資源、エネルギーの面から学び、日本の自然災害と人間とのかかわりを考える。 | 10 | |
| 第3学期 | 1 | 終1章 地球環境の考え 終2章 自然環境の変動 | ・自然現象は「時間スケール」と「空間スケール」で見ることができることを理解する。 ・自然環境の変化は、外的要因と内的要因、人間活動によるものがあり、それらは時間スケールが異なることを理解する。 | 12 | |
| | 2 | 終3章 これからの地球 | ・気候変動に関する様々な世界の取り組みについて整理し理解する。 | 17 | |
| | 3 | チャレンジ問題 巻末資料 | | | |

【理科 シラバス】

| | | | | | |
|-------|-------------|-----|------|-----|----------------------|
| 科目名 | 物理基礎 | | 使用教材 | 教科書 | 高等学校新物理基礎(第一学習社) |
| 学年 | 2 | 単位数 | 2 | 副教材 | フォローアップドリル物理基礎(数研出版) |
| 科・コース | 普通科・進学コース理系 | | | | |

【授業の概要】

物体の運動や熱、波動、電磁気などに見られる法則を体系的に理解する科目です。単なる知識として受け入れるのではなく背景となっている考え方の体系を自分の中に取り入れます。また、数式やグラフを使って理解を深めます。

【学習方法と授業の進め方】

基礎・基本の理解を中心に授業を進め、共通テスト試験でも得点が取れるようになることを目指します。中学までの理科物理分野と異なり初めて見る公式が沢山出てきますが、公式の暗記では問題を解くことはできません。物理公式の内容を理解するため授業を通してしっかりとした思考力や分析力、読解力を養います。授業は教科書を中心に行い、単元に応じて実験も実施します。単元は3つに分かれており、①力学、②波動、③電気です。進行に応じて小テストを実施する場合がありますのでこまめに復習をして授業内容の定着を図ってください。

【学習評価】

定期テストおよび下記の観点別評価により総合的に判断する。

観点別評価

| 評価の観点 | 内容 | 評価方法 |
|----------------|---|--|
| ①知識・技能 | 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。 | ・定期考査の知識・理解に関する問題 ・課題への取り組み |
| ②思考・判断・表現 | 自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。 | ・定期考査の思考・応用問題(資料読解・論述問題) ・課題への取り組み ・観察・実験等 |
| ③主体的に学習に取り組む態度 | 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。 | ・学習活動への参加の仕方や態度 ・観察・実験・発表等 |

【留意事項】 授業に取り組む上でのアドバイスなど

・「斜面を物体が滑る」や「ばねに物体を取り付けて引っ張った後、手を離れた」と聞いて、この動作を想像できますか？物理の力学は物体の運動を想像できるかが理解のカギです。ぼーっと授業を聞くのではなく想像力を働かせてどのような運動をしているのかをイメージしながら臨んで下さい。

・波動分野は視覚教材や動画を見て媒質の運動を考えよう。全体を見ると次々と伝わる波も、一点を見ると単なる振動です。媒質の様子を把握すると波に取り組みやすくなります。

・電気分野はまず中学の復習です。オームの法則と回路への利用に苦手意識があると思います。復習を大事にしてください。

年間指導計画

| 学期 | 月 | 単元名 | 学習内容 | SD Gs | 備考欄 |
|------|----|-----------------------|---|----------|-----|
| 第1学期 | 4 | I章力と運動 1節物体の運動 | 速さ、速度、変位、等速直線運動 加速度、等加速度直線運動 | | |
| | 5 | 1節物体の運動 | 重力加速度 自由落下、投げ上げ・投げ下ろし 水平・放物投射 | | |
| | 6 | 2節力と運動の法則 | 力と質量、力の種類 力の分解・合成 運動の法則 | | |
| | 7 | 2節力と運動の法則 | 運動方程式 | | |
| 第2学期 | 9 | II章エネルギー 1節仕事と力学的E | 力と仕事、仕事の原理、仕事率 運動エネルギー、位置エネルギー、弾性エネルギー | 12 | |
| | 10 | 1節仕事と力学的E | 力学的エネルギーと保存則 | | |
| | 11 | 2節熱とエネルギー | 温度、熱と仕事、エネルギーの変換 | 7 | |
| | 12 | III章波動 1節波の性質 | 波と振動、波形、重ね合わせ 定常波、波の反射 | | |
| 第3学期 | 1 | 2節音波 | 音速、気柱の振動、弦の振動 | | |
| | 2 | IV章電気 1章電荷と電流 | 電荷、電流、抵抗 回路、電力量 | 12 | |
| | 3 | 2章電流と磁場 3節エネルギーと利用 | 磁場、交流、変圧、電磁波 電気エネルギーの変換 | 7 | |

【理科 シラバス】

| | | | | | | |
|-------|-----------|-----|---|----------|------------|-------------------------------------|
| 科目名 | 化学 | | | 使用 教材 | 教科書 副教材 | 新編 化学 (数研出版) フォローアップドリル化学 (数研出版) |
| 学 年 | 2 | 単位数 | 2 | | | |
| 科・コース | 普通科 進学コース | | | | | |

【授業の概要】

化学基礎で学んだ身の回りの物質の性質をさらに詳しく学び、身近で起こる化学変化と結びつけ、生命と生活に関係する物質について具体的に学習する科目です。(化学基礎の続き)

【学習方法と授業の進め方】

- ① 授業は、教科書、図表、プリントなどを使用して進めていきます。
- ② 授業の形態は生徒実験、教室での授業、実験講義の3つの形式があります。
場所や授業形式によらず、そのときの学習の流れ(今、何についてどんな順序で学習しているのか)を意識し、自主的に、かつ積極的に授業に参加するようにしましょう。
- ③ 実験では、どんな内容を理解するためのものなのかを考えながら取り組みましょう。実験器具の使い方や器具の洗浄、後かたづけにも気を配りましょう。実験室をきれいな状態で使用できるようにしましょう。

【学習評価】

定期テストおよび下記の観点別評価により総合的に評価する。

観点別評価

| 評価の観点 | 内容 | 評価方法 |
|----------------|--|--|
| ①知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・観察や実験を通して、さまざまな自然現象の背景には原理や法則があることを理解できたか。 ・観察や実験の技能を修得できたか。 ・観察や実験を通して科学的に探究する方法を習得できたか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査の知識・理解に関する問題 ・課題への取り組み |
| ②思考・判断・表現 | <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな化学反応を論理的に考察・分析し、その本質を原理や法則から説明できるか。 ・観察や実験を通して、化学反応を論理的に分析し、問題を解決し、実験結果(事実)に基づいて科学的に判断できるか。 ・課題や実験のレポートにおいて、的確に表現する方法を習得しているか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査の思考・応用問題(資料読解・論述問題) ・課題への取り組み ・観察・実験等 |
| ③主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> ・自然現象や身近にある化学的な事象に関心を持ち、科学的な見方をしているか。 ・授業、実験に意欲的に参加し、論理的に探究しようとする態度が見えるか。 ・学習内容について振り返り、日常生活や社会に生かそうとしているか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への参加の仕方や態度 ・観察・実験・発表等 |

【留意事項】 授業に取り組む上でのアドバイスなど

- ・化学基礎からの続きの内容です。化学基礎内容をしっかりと理解していないと、化学の授業内容を理解することが困難になります。化学式、化学反応式、物質質量計算等の基本事項は確実に定着させましょう。

年間指導計画

| 学期 | 月 | 単元名 | 学習内容 | SD Gs | 備考欄 |
|------|----|------------|---|----------|-----|
| 第1学期 | 4 | 第1編 物質の状態 | 第1章 固体の構造 第2章 物質の状態変化 第3章 気体 | | |
| | 5 | | 第4章 溶液 | | |
| | 6 | 第2編 物質の変化 | 第1章 化学反応とエネルギー 第2章 電池と電気分解 | 7 13 | |
| | 7 | | 第3章 化学反応の速さとしくみ | 7 9 | |
| 第2学期 | 9 | | 第4章 化学平衡 | 9 | |
| | 10 | 第3編 無機物質 | 第1章 非金属元素 | | |
| | 11 | | 第2章 金属元素 (I) -典型元素- 第3章 金属元素 (II) -遷移元素- | | |
| | 12 | 第4編 有機化合物 | 第1章 有機化合物の分類と分析 第2章 脂肪族炭化水素 | | |
| 第3学期 | 1 | | 第3章 アルコールと関連化合物 第4章 芳香族化合物 | | |
| | 2 | 第5編 高分子化合物 | 第1章 高分子化合物の性質 第2章 天然高分子化合物 | | |
| | 3 | | 第3章 合成高分子化合物 終章 化学とともに歩む | | |

【英語科 シラバス】

| | | | | | | |
|-------|--------------------------|-----|---|----------|-----|--------------------------------------|
| 科目名 | English Communication II | | | 使用 教材 | 教科書 | PANORAMA2 (大修館) |
| 学 年 | 2 | 単位数 | 4 | | 副教材 | PANORAMA2 予習・復習ノート Data Base 3300 |
| 科・コース | 普通科 進学コース | | | | | |

【授業の概要】

「聞くこと」・「読むこと」・「やり取り」・「発表」・「書くこと」の5領域（スキル）の力を伸ばす活動を行いながらテキスト本文の理解を深め各レッスンの目標（Target Task）を達成できるようにします。学習したことを踏まえ自分の考えや意見を英語で表現し、それを説明・発表する活動を通して英語で様々な表現ができるようになり学習内容の理解をより深められることを目標とします。

【学習方法と授業の進め方】

授業は新出単語・熟語の意味を確認し、文法項目の説明を加えながら内容を理解し要点をつかめるように英文を読み進めていきます。リスニングでの内容理解の確認や自分の考えや意見の英作文や発表、ペアワークやグループワークなどの活動も行います。また予習・復習ノートを使って各パートの予習や復習を各自で取り組んでもらい、さらに各レッスンのさまざまな形式のまとめ問題を解いて内容理解の確認をします。

【学習評価】

観点別評価

| 評価の観点 | 内容 | 評価方法 |
|----------------|---|--|
| ①知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> 各レッスンの文法項目を用いた文の意味や働きを理解し、文章の内容を理解する技能を身に付けている。 各レッスンの文法項目を用いた文の構造を理解し内容に関する話題について情報や考え、気持ちなどを適切に話して伝え合ったり伝えたりする技能を身に付けている。 各レッスンの文法項目を用いた文の構造を理解し、内容に関する話題について情報や考え、気持ちなどを適切に書いて伝える技能を身に付けている。 | <ul style="list-style-type: none"> 定期考査の「知識・技能」に関する問題 |
| ②思考・判断・表現 | <ul style="list-style-type: none"> 聞いた内容について書いてまとめるために、各内容について話された文章の概要や要点を捉えている。 読んだ内容について書いてまとめるために、各内容について書かれた文章の概要や要点を捉えている。 クラスメートにわかるように、内容に関する話題について基本的な語句や文を用いて情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えあったり伝えたりしている。 | <ul style="list-style-type: none"> 定期考査の「思考・判断・表現」に関する問題 自分の意見や考えを表現している |
| ③主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> 聞いた内容について書いてまとめるために、各内容について話された文章の概要や要点を捉えようとしている。 読んだ内容について書いてまとめるために、各内容について書かれた文章の概要や要点を捉えようとしている。 クラスメートにわかるように、内容に関する話題について基本的な語句や文を用いて情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えあったり伝えたりしようとしている。 | <ul style="list-style-type: none"> 授業中のペアワークやグループワークにおける発言や参加意欲・態度 ワークブック等の課題の提出状況 |

【留意事項】 授業に取り組む上でのアドバイスなど

- ・事前に各パートの新出単語や熟語の意味を調べておきましょう。
- ・英文の内容理解に努めましょう。
- ・授業中のペアワークやグループワークに積極的に参加しましょう。また発表は自信を持って行いましょう。
- ・ワークブックやその他の課題の提出を忘れずに行いましょう。

年間指導計画

| 学期 | 月 | 単元名 | 学習内容 | SD Gs | 備考欄 |
|------|----|---|--|----------|-----|
| 第1学期 | 4 | Lesson1 World Panoramas 世界の国々の魅力と課題 | Part 1: New York の特徴と社会課題について理解する／関係副詞 why/how の使い方を理解する Part 2: Kenya の特徴と環境問題について理解する／関係代名詞 whose の使い方を理解する Part 3: Bhutan の特徴とその社会変化について理解する／分詞構文（現在分詞）の使い方を理解する Part 4: Australia の特徴と環境問題について理解する／分詞構文（過去分詞）の使い方を理解する | | |
| | 5 | Lesson2 The World of Tea 身近なお茶の意外な真実 | Part 1: 世界の国々でのお茶の消費について理解する／形式主語（It is ~ that...）の使い方を理解する Part 2: お茶の種類について理解する／動詞+have+過去分詞の使い方を理解する Part 3: 日本と海外の国々のお茶の文化について理解する／関係代名詞の継続用法の使い方を理解する Part 4: 現代におけるお茶の文化について理解する／未来進行形の使い方を理解する | | |
| | 6 | Lesson3 Sleep 睡眠のしくみと重要性 | Part 1: 人間や動物の睡眠について理解する／S+V（知覚動詞）+O+C（現在分詞）の使い方を理解する Part 2: 眠りの段階と夢について理解する／S+V（知覚動詞）+O+C（過去分詞）の使い方を理解する Part 3: 睡眠と健康の関係について理解する／形式目的語 it+不定詞／that 節 の使い方を理解する Part 4: よい睡眠をとる方法について理解する／疑問詞+do you think ~? の使い方を理解する | | |
| | 7 | Lesson4 Biomimetics 自然に学ぶ先端技術 | Part 1: バイオミメティクスとは何かについて理解する／進行形の受動態の使い方を理解する Part 2: バイオミメティクスの具体例について理解する／現在完了形の受動態の使い方を理解する Part 3: バイオミメティクスとナノテクノロジーの関係について理解する／生物主語の使い方を理解する Part 4: バイオミメティクスと持続可能な社会について理解する／関係副詞 where/when の継続用法の使い方を理解する | | |
| 第2学期 | 9 | Lesson5 Table for Two 相席が生んだ奇跡の実話 | Part 1: 物語の場面設定と登場人物について理解する／if/whether を用いた間接疑問の使い方を理解する Part 2: 2人の出会いと出会った時の心情を理解する／複合関係代名詞の使い方を理解する Part 3: 2人の間に起きた事件とその時の心情を理解する／複合関係副詞の使い方を理解する Part 4: 物語の流れを追いながら2人の心情を想像する／仮定法過去完了の使い方を理解する | | |
| | 10 | Lesson6 Yusra Mardini 難民スイマーの苦難と挑戦 | Part 1: ユスラさんの置かれた状況について理解する／前文の内容を受ける which の使い方を理解する Part 2: 2015年にユスラさんが経験したことを理解する／独立分詞構文の使い方を理解する Part 3: ユスラさんの人生の転機について理解する／時・条件の副詞節の使い方を理解する Part 4: ユスラさんの活躍の内容について理解する／前置詞+関係代名詞の使い方を理解する | 10 | |
| | 11 | Lesson7 Social Media and Communication SNS で変わるコミュニケーション | Part 1: コミュニケーションの方法が時代とともに変化してきたことを理解する／付帯状況を表す with の使い方を理解する Part 2: 科学技術がコミュニケーションに与えた影響を理解する／I wish+仮定法過去の使い方を理解する Part 3: オンラインコミュニケーションが人間関係や言語に与える影響について理解する／部分否定の使い方を理解する Part 4: ソーシャルメディアの課題や利点について理解する／S+V（=be 動詞）+C（that 節）の使い方を理解する | | |
| | 12 | Lesson8 People and Robots ロボットと共生する社会 | Part 1: "robot"の語源とロボット技術の進展について理解する／suggest に続く that 節の使い方を理解する Part 2: セラピーロボットの役割について理解する／ | 17 | |

| | | | | | |
|----------|-------------|---|---|--|--|
| | | | 動名詞の意味上の主語の使い方を理解する Part 3: アバターロボットとは何かについて理解する ／if節に代わる表現の使い方を理解する Part 4: 将来のロボットに求められる役割について理解する ／未来完了形の使い方を理解する | | |
| 第3 学期 | 1 | Lesson9 All about Zoos 動物園の歴史と新たな役割 | Part 1: 動物園の起源について理解する／完了不定詞の使い方を理解する Part 2: イマージョン展示とは何かについて理解する ／同格の that 節の使い方を理解する Part 3: 環境エンリッチメントについて理解する／省略表現の使い方を理解する Part 4: 動物保護における動物園の役割について理解する。／完了形の分詞構文の使い方を理解する | | |
| | 2 ・ 3 | Lesson10 No One Is Too Small to Make a Difference 環境活動家グレッタのスピーチ | Part 1: グレッタさんの活動初期の状況について理解する／強調構文の使い方を理解する Part 2: グレッタさんの活動がどう広がったかを理解する ／as if+仮定法の使い方を理解する Part 3: グレッタさんの主張や表現方法の工夫を理解する ／倒置の使い方を理解する Part 4: グレッタさんの主張や具体的行動について理解する ／be+to 不定詞の使い方を理解する | | |

【英語科 シラバス】

| | | | | | | |
|-------|----------|-----|---|----------|-----|---|
| 科目名 | 論理・表現Ⅱ | | | 使用 教材 | 教科書 | be English Logic and Expression I clear (いいずな書店) be English Logic and Expression II Clear (いいずな書店) |
| 学 年 | 2 | 単位数 | 2 | | 副教材 | be English Logic and Expression I clear Essential Grammar Book 総合英語 be be English Logic and Expression II Clear Grammar Book |
| 科・コース | 普通科進学コース | | | | | |

【授業の概要】

身近な話題（日常生活，学校生活，メディア，地域など）から社会的な話題（文化，人権，環境，社会問題 など）までを取り上げ，主体的に2技能3領域の活動をバランスよく行います。各レッスンは〈導入〉〈定着〉〈発展〉の3ユニット構成であり，〈定着〉ページでは項目ごとに小さな言語活動に取り組みます。言語や文化に対する理解を深め，コミュニケーションを図ろうとする態度を養うとともに，論理的な思考力を養い，論理の展開や表現の方法を工夫し，伝える能力を養います。

【学習方法と授業の進め方】

「話すこと[やりとり]」「話すこと[発表]」「書くこと」を中心とした活動を教科書中心で授業を進めていきます。さらに各レッスンで出てきた知識・技能を定着させるために文法項目を中心とした学習を，ワークブックを利用しながら進めていきます。

【学習評価】

| 観点別評価 | | |
|----------------|---|--|
| 評価の観点 | 内容 | 評価方法 |
| ①知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> 各レッスンで出てくる文法項目やきまりの特徴に関する事項を理解している。 各レッスンで出てくる場面に応じた表現や重要表現とその意味を理解している。 各レッスンで出てくる表現などを用いて，事実や自分の考え気持ちを整理し，また状況に応じて即興で伝え合うことや発表する技能，さらに正確に書く技能を身に付けている。 事実や自分の考え気持ちを発表するための基本的な語句や文，文法項目事項を身に付けている。 | <ul style="list-style-type: none"> 定期考査の「知識・技能」に関する問題。 |
| ②思考・判断・表現 | <ul style="list-style-type: none"> 事実や自分の考え，気持ちなどを即興で伝え合っている。 事実や自分の考え気持ちを整理し，発表している。 事実や自分の考え，気持ちなどを整理し，正確に書いている。 | <ul style="list-style-type: none"> 定期考査の「思考・判断・表現」に関する問題。 発表や書くことを中心とした活動。 課題の提出状況。 |
| ③主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> 基本的な語句や文を用いて，事実や自分の考え気持ちなどを即興で伝え合おうとしたりは発表しようとしている。 基本的な語句や文を用いて，事実や自分の考え気持ちを整理し，発話したり，正確に書こうとしている。 | <ul style="list-style-type: none"> 授業中やペアやグループワークでの発言や参加態度。 ワークブックや課題等の提出状況。 |

【留意事項】 授業に取り組む上でのアドバイスなど

- 教科書に事前に目を通し，基本的な語彙や表現を言うことや書くことができるように準備しておきましょう。
- 授業では，意欲的な発言やペアワーク・グループワーク，発表の際にも積極的に参加しましょう。
- 課題の提出期限は厳守しましょう。

年間指導計画

| 学期 | 月 | 単元名 | 学習内容 | SDGs | 備考欄 |
|------|----|--|---|---------|-----|
| 第1学期 | 4 | Lesson 1 Your Interests | Lesson 1 現在形 / 過去形 / 完了形 / 未来を表す表現 | | |
| | 5 | Lesson 2 Your Daily Life Lesson 3 Your School Life | Lesson 2 不定詞 (名詞用法) / 動名詞 / 名詞節 Lesson 3 can / may / must / should / 推量を表す助動詞 / 助動詞+have+過去分詞 | | |
| | 6 | Lesson 4 Media Literacy Lesson 5 Helping Others | Lesson 4 形容詞の限定用法と叙述用法 / 分詞の限定用法と叙述用法 / 感情を表す分詞形容詞 Lesson5 名詞+形容詞句・前置詞句 / 名詞+分詞句 (分詞の限定用法) / 名詞+不定詞句 (不定詞の形容詞用法) | 9 | |
| | 7 | Lesson 6 Introducing Your Town | Lesson 6 関係代名詞 (限定用法) / 関係代名詞 (非限定用法) / 関係副詞 | 11 | |
| 第2学期 | 9 | Lesson 7 Languages of the World | Lesson 7 さまざまな副詞 / 否定の意味を表す副詞 / 文を修飾する・文の意味をつなぐ副詞 | 10 | |
| | 10 | Lesson 8 Imagining the Future Lesson 9 Happiness and Stress | Lesson 8 不定詞 (副詞用法) / 不定詞を使う表現 / 分詞を使う表現 Lesson 9 副詞節 時・理由・条件などを表す副詞節 / 譲歩を表す副詞節 / 目的・程度を表す表現 | 3 | |
| | 11 | Lesson 10 Comparing Countries Lesson 11 Cultural Diversity | Lesson 10 原級を使う比較 / 比較級を使う比較 / 最上級を使う比較・一番を表す表現 Lesson 11 仮定法過去 / 仮定法過去完了 / wish / if only / as if | 10 5 | |
| | 12 | Lesson12 Japanese Customs | Lesson12 要求・必要を表す表現 / 認識の表現・時制の一致 / 話法 | | |
| 第3学期 | 1 | Lesson 13 Population Issues | Lesson13 「ある」「いる」の表現 / 「なる」「するようになる」の表現 / 「かかる」の表現 | 3 | |
| | 2 | Lesson 14 Rights and Equality | Lesson 14 使役動詞 / 分詞を使う「させる」「される」の表現 / 知覚動詞 | 5 | |
| | 3 | Lesson 15 Think Globally, Act Locally | Lesson 15 「～すると…になる」の表現 / 「～が…させる [させない]」の表現 / 日本語と違う表し方 (受動態を使う表現) | 6 | |

【保健体育科 シラバス】

| | | | | | | |
|-------|-----------|-----|---|----------|-----|-------------------|
| 科目名 | 体育 | | | 使用 教材 | 教科書 | MY SPORTS (大修館書店) |
| 学 年 | 2 | 単位数 | 2 | | 副教材 | なし |
| 科・コース | 普通科 進学コース | | | | | |

【授業の概要】

- ・運動の合理的な実践を通して、体を動かすことの楽しさや喜びを味わうことができるようにするとともに、運動能力や体力の向上を図り、自主自立を身につけた豊かな人間性の育成を重点にしています。
- ・生涯を通して継続的に運動ができる資質や能力を育てる科目です。

【学習方法と授業の進め方】

- ・体育委員が集合、整列、準備運動を行います。
- ・授業の内容説明と健康状況の確認をします。
- ・個々のレベルを把握し初歩的な技術を習得します。
- ・ゲーム形式で行います。
- ・整理運動と授業のまとめをします。

【学習評価】

- ・スキルテストを始め下記の観点別学習評価により総合的に評価する。

観点別評価

| 評価の観点 | 内容 | 評価方法 |
|----------------|--|---|
| ①知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・様々な種目における技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法などを理解しているか。 ・ゲームや競技会の仕方などを理解しているか。 ・基本動作や、基本となる技を作戦や状況に応じて用いてゲーム展開をしているか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・スキルテスト ・ゲーム (簡易ゲームも含む) |
| ②思考・判断・表現 | <ul style="list-style-type: none"> ・課題解決の過程を踏まえて、自己や仲間の新たな課題を発見しているか。 ・課題を解決するための練習の計画を立てているか。 ・自己や仲間の動きを分析して、良い点や修正点を指摘しているか。 ・グループ学習においてチームや自己の役割を提案しているか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・グループ学習 ・ゲーム (簡易ゲームも含む) |
| ③主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> ・主体的に取り組んでいるか。 ・フェアプレイを大切にしているか。 ・話し合う場面で合意形成に貢献しようとしているか。 ・健康、安全を確保しているか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・グループ学習 ・スキルテスト ・ゲーム (簡易ゲームも含む) |

【留意事項】 授業に取り組む上でのアドバイスなど

- ・学校指定の体操服、シューズを着用してください。また、こまめに洗濯し衛生面に気をつけましょう。
- ・授業はチャイムと同時に始まりますので、休み時間のうちに活動場所に移動しておいてください。
- ・見学者は授業前に申し出るようにしましょう。
- ・貴重品の管理をしっかりと行うようにしてください。
- ・安全面には充分気を配りましょう。

年間指導計画

| 学期 | 月 | 単元名 | 学習内容 | SD Gs | 備考欄 |
|------|----|---|--|----------|-----|
| 第1学期 | 4 | 集団行動 体づくり運動、体育理論 | ・集合 ・解散 ・列の増減 ・開列 ・方向転換 ・行進 ・行進からの方向転換 ・かけ足 ・複合動作 ・まとめ、評価 ・体ほぐしの運動 ・体力を高める運動 | 3 | |
| | 5 | 新スポーツテスト (8種目を実施) | ・50m 走 ・立ち幅跳び ・ハンドボール投げ ・持久走 ・握力 ・上体起こし ・長座体前屈 ・反復横跳び | 3 | |
| | 6 | 硬式テニス ① オリエンテーション ② ストローク | ・学習内容の理解、安全性とマナー、ボールやラケットに慣れる ・1対1で向かい合い軽く打ち返す、ストローク、クロスラリー | 3 | |
| | 7 | ③ サービス、ゲーム 器械運動 ・マット運動 | ・トス、基本的なフォーム、ゲーム形式で練習、リーグ戦で試合 ・前転、後転、倒立、側方倒立回転、片足バランス | 3 | |
| 第2学期 | 9 | バスケットボール ① オリエンテーション ② パスカッチ、基礎 | ・学習内容の理解、安全性とマナー ・チェスト、オーバーハンド、フック、サイドハンド、パスキャッチ | 3 | |
| | 10 | ③ シュート、基礎 ④ ドリブル、基礎 ⑤ 簡易ゲーム | ・レイアップ、ジャンプ、セット ・ドリブルからパス、ドリブルからシュート ・オールコート5対5のゲーム | 3 | |
| | 11 | サッカー ① オリエンテーション ② ボールに慣れる 基礎練習 | ・学習内容の理解、安全とマナーについて ・ボールリフティング、パス、トラップ、ドリブル、シュート | 3 | |
| | 12 | ③ ゲーム ④ まとめ、評価 | ・正規のルールによるリーグ戦 ・まとめ、評価 | 3 | |
| 第3学期 | 1 | バドミントン ① オリエンテーション | ・学習内容の理解、安全性とマナー、ラケットの握り方 | 3 | |
| | 2 | ② サービス、基礎 ③ ストローク、基礎 ④ ラケットワークと フラインクの基礎 | ・ロングサービス、ショートサービス ・オーバーヘッドストローク(バック、フォア) ・クリアー、ドライブ、ドロップ、スマッシュ、ヘアピン | 3 | |
| | 3 | ⑤ ゲーム | ・ダブルスによるリーグ戦 | 3 | |

【保健体育科 シラバス】

| | | | | | | |
|-------|-------|-----|---|----------|------------|---|
| 科目名 | 保健 | | | 使用 教材 | 教科書 副教材 | 現代高等保健体育 (大修館書店) 現代高等保健体育ノート (大修館書店) |
| 学 年 | 2 | 単位数 | 1 | | | |
| 科・コース | 進学コース | | | | | |

【授業の概要】

個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにする。
生涯を通じて自らの健康を適切に管理し改善していく資質や能力を育てる。

【学習方法と授業の進め方】

保健は2年間を通じて学びます。
保健に関する情報は日々変化し、マスメディアなどから健康問題に関するさまざまな情報があふれています。
生徒の皆さんが間違った認識をもたないように正しい知識を身につけていきます。
健康とは何か、健康を維持増進していくために身体の仕組みを知り、疑問があればそのままにしてしまわずに進んで質問してください。

【学習評価】

定期テストおよび下記の観点別評価により総合的に評価します。

観点別評価

| 評価の観点 | 内容 | 評価方法 |
|----------------|---|---|
| ①知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・我が国の死亡率、受療率、平均寿命、健康寿命など各種の指標や疾病構造の変化を通して国民の健康課題について、理解できたか。 ・生活習慣病などのリスクを軽減し予防するには調和のとれた健康的な生活を続けることが必要であることと定期的な健康診断を受診することの大切さを理解できたか。 ・思春期における心身の発達や性的成熟に伴う身体面、心理的面、行動面などの変化に関わり、健康課題が生じることがあることについて理解できたか。 ・自分の行動への責任感や異性を理解したり尊重したりする態度が必要であること、及び性に関する情報等への適切な対処が必要であることが理解できたか。 ・結婚生活について、心身の発達や健康の保持増進の観点から理解できたか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・期末考査の知識・理解に関する問題 ・ノート提出 ・課題プリントへの取り組み |
| ②思考・判断・表現 | <ul style="list-style-type: none"> ・健康の考え方について、健康に関わる原則や概念を基に整理できているか。 ・生活習慣病などの予防と回復について、習得した知識を基に自他の生活習慣や社会環境を分析し、リスクの軽減と生活の質の向上に必要な個人の取り組みや社会的な対策を整理できているか。 ・思春期と健康について、習得した知識を基に、心身の発達や性的成熟に伴う健康課題を解決するために、性に関わる情報を適切に整理しているか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・期末考査の知識・理解に関する問題 ・ノート提出 ・課題プリントへの取り組み |
| ③主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> ・心身の健康に関心を持ち学習しているか。 ・自ら健康的な生活を実践するため、健康課題の解決に向け意欲的に取り組もうとしているか。 ・生涯の各段階におけるこれからの健康課題の解決に向け、学習に積極的に取り組んでいるか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・期末考査の知識・理解に関する問題 ・ノート提出 ・課題プリントへの取り組み |

【留意事項】 授業に取り組む上でのアドバイスなど

- ・教科書や学習ノートを必ず用意し、配布される資料やプリントは、きちんと保管してください。(定期考査に役立ちます)
- ・ノートをとる際は、ただ板書を書き写すのではなく、先生の発言も聞き逃すことなくメモをとるようにしましょう。
- ・提出物は遅れずに忘れず提出してください。

年間指導計画

| 学期 | 月 | 単元名 | 学習内容 | SDGs | 備考欄 |
|------|----|--------------------------------------|--|--------|-----|
| 第1学期 | 4 | 現代社会と健康 1 健康の考え方と成り立ち | さまざまな健康の考え方について例をあげて学んでいきます。 ・健康についての多様な考え方 ・健康の成り立ちとその要因 | 3 | |
| | 5 | 2 私たちの健康のすがた 3 生活習慣病の予防と回復 | わが国の健康水準とその背景、現在の健康問題について学びます。 ・わが国における健康水準の向上 ・わが国における健康問題の変化 生活習慣病の一次予防、二次予防について学びます。 ・生活習慣病とその種類 ・予防から回復まで | 3 | |
| | 6 | 4 がんの原因と予防 5 がんの治療と回復 | がんの一次予防と二次予防について例をあげながら学んでいきます。 ・がんとその種類 ・がんの予防 がん検診の普及や情報サービスの対策を学びます。 ・がんの治療と緩和ケア ・がんとともに生きる社会づくり | 3 | |
| | 7 | 6 運動と健康 | 健康と運動の関係について学びます。 ・健康からみた運動の意義 ・健康により運動のしかた | 3 | |
| 第2学期 | 9 | 7 食事と健康 8 睡眠と健康 9 喫煙と健康 | 食事と健康の関係を学びます。 ・健康的な食生活の意義 ・健康により食事のとり方 健康と休養の関係及び適切な休養のとり方について学びます。 ・健康からみた休養の意義 ・健康からみた睡眠の意義 喫煙者やその周囲の人に起こる害について学びます。 ・喫煙の影響・喫煙への対策 | 3 | |
| | 10 | 10 飲酒と健康 11 薬物乱用と健康 | 飲酒による短期的影響と長期的や個人や社会環境への対策について学びます。 ・飲酒の影響 ・飲酒への対策 薬物乱用防止のための個人や社会環境への対策を学んでいきます。 ・薬物乱用の影響・薬物乱用の要因と対策 | 3 | |
| | 11 | 生涯を通じる健康 1 ライフステージと健康 2 思春期と健康 | 各ライフステージで活用できる社会からの支援について学びます。 ・ライフステージと死亡や病気 ・各ライフステージにおける健康課題とその支援 思春期における体の変化や心の発達に関わって起こる問題について学びます。 ・思春期の体と健康・思春期の心と健康 | 3 5 | |
| | 12 | 3 性意識と性行動の選択 | 性意識の男女差について学びます。 ・性意識とその尊重 ・性に関する情報と性行動 | 3 5 | |
| 第3学期 | 1 | 4 妊娠・出産と健康 | 妊娠・出産の過程における健康課題について学びます。 ・受精・妊娠・出産・母子保健サービスの活用 | 3 | |
| | 2 | 5 避妊法と人工妊娠中絶 | 人工妊娠中絶が心身に及ぼす影響について学びます。 ・家族計画の意義と避妊法 ・人工妊娠中絶 | 3 | |
| | 3 | 6 結婚生活と健康 | 結婚生活を健康的に送るために必要な考え方について学びます。 ・結婚生活の基盤となる心身の発達 ・結婚生活と家族の健康 | 3 | |

【家庭科 シラバス】

| | | | | | | |
|-------|-----------|-----|---|----------|-----|--|
| 科目名 | 家庭基礎 | | | 使用 教材 | 教科書 | 大修館書店 Creative Living 『家庭基礎』 で生活をつくろう |
| 学 年 | 2 | 単位数 | 2 | | 副教材 | |
| 科・コース | 普通科 進学コース | | | | | |

【授業の概要】

人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技能を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上と実践的な態度を育てる

【学習方法と授業の進め方】

- ・必要な知識を習得し、家庭生活への実践力を養う。
- ・教科書を基本とした授業を進めていく。
- ・年間に多くの調理実習や作品制作の時間を確保し、授業で得た知識や技能を実践的に発揮できるよう進める。

【学習評価】

定期テストおよび下記の寒天氷塊により総合的に評価する。

観点別評価

| 評価の観点 | 内容 | 評価方法 |
|----------------|---|---|
| ①知識・技能 | 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活等に関する基本的な知識と技能を身につけている | <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査の知識・理解に関する問題 ・課題プリントへの取り組み ・ノート作成状況 ・作品制作への取り組み |
| ②思考・判断・表現 | 人の一生を家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて課題を見出し、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、表現を工夫するなど、生活を創造する能力を身につけている | <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査の思考・判断 ・課題プリントへの取り組み ・作品制作に対する表現や思考 |
| ③主体的に学習に取り組む態度 | 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて関心を持ち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身につける | <ul style="list-style-type: none"> ・作品制作に対する仕方や態度 ・実習に対する態度や取り組み ・課題プリントへの取り組み |

【留意事項】 授業に取り組む上でのアドバイスなど

- ・作品制作、調理実習では指導を守り、安全かつ衛生的な実習ができるよう心がけてください。
- ・調理実習はグループで行うので、協調性を保ち、役割分担を決めて取り組みましょう。
- ・教材は忘れないようにしてください。
- ・提出物は期限を守り、必ず提出してください。
- ・学んだことを家庭生活で実践することにより理解が深められると思います。

年間指導計画

| 学期 | 月 | 単元名 | 学習内容 | SDGs | 備考欄 |
|------|----|--|--|-------------------------------|-----|
| 第1学期 | 4 | 第9章 食生活のマネジメント 1. 体と心を満たす食事 2. イエローカードかも | ・食事の役割 ・食生活を見直す・生活文化を継ぐ・つくる | 3 3 | |
| | 5 | 3. 栄養バランスのよい食事 4. 炭水化物を摂る | ・栄養素の量と食事の量 ・炭水化物の働きと食品の調理性 | 3・ 12 3 | |
| | 6 | 5. 脂質を摂る 6. たんぱく質を摂る | ・脂質の働きと食品の調理性 ・たんぱく質の働きと食品の調理性 | 3 3 | |
| | 7 | 7. 無機質を摂る 8. ビタミンを摂る ・作品制作 ・調理実習 | ・無機質の働きと食品の調理性 ・ビタミンの働きと食品の調理性 | 3 3 | |
| 第2学期 | 9 | 9. 豊かな食卓に 10. 食品のプロフィールを知る ・作品制作 ・調理実習 | ・その他の食品 ・食品の選択と購入 | 3・ 12 | |
| | 10 | 11. 食品を安全に取り扱う 12. 持続可能な食生活 | ・食品の保存と衛生 ・環境と食生活 | 3・ 12 | |
| | 11 | 第7章 持続可能な社会をつくる 1. 地球が危ない 2. ライフスタイル再考 3. めざせ！持続可能な社会 | ・生活と環境のかかわり ・持続可能な消費 ・参画する意義 | 7・ 12・ 13・ 14・ 15 | |
| | 12 | 第8章 経済生活のマネジメント 1. 生活を営むためのお金 2. 経済のしくみを知ろう ・行事食実習 ・作品制作 | ・経済的な自立 ・家計の構造と社会 | 8 | |
| 第3学期 | 1 | 3. お金と上手につきあう術 4. 18歳で変わる消費生活 5. 進むキャッシュレス社会 ・調理実習 ・作品制作 | ・経済計画とリスク管理 ・消費と契約 ・購入方法・支払方法の多様化 | 8 8・ 9 | |
| | 2 | 6. 「お金を借りる」ということ 7. 消費者トラブルの今 8. 消費者の自立を支援する ・作品制作 | ・消費者信用の利用と管理 ・多様化する消費者問題 ・消費者保護の法律と仕組み | 8 | |
| | 3 | 9. 情報社会を生きる 10. 私たちが社会を動かす ・調理実習 | ・情報の収集と整理 ・消費者の権利と責任 | 8・9 8・ 12 | |